

1 題目

腫瘍遺伝子検査の導入の可否について

2 対象者

下記内容の検査が必要な患者を対象とする。

3 内容

転移性去勢抵抗性前立腺癌の新たな治療選択肢として、乳癌・卵巣癌と共通のBRCA遺伝子変異を伴う症例に対してPARP阻害剤であるリムパーザ(内服薬)が承認され、すでに国内で広く使用されている。

この遺伝子変異を検出する検査として生殖細胞系の変異のみを検出するBRCAAnalysis(採血で行える)と体細胞を含めた多くの遺伝子変異を検出するパネル検査(腫瘍組織で行う遺伝子カウンセリングが必須)2種類がある。当院では採血のみで簡便に行えるBRCAAnalysisをすでに外科で施行しているが、泌尿器科でも同検査を行いたい。陽性率は10%程度である。

この検査を行う要件として遺伝子カウンセリングの行える施設との連携が必要であるが、必要時には福山市民病院への紹介が可能である。

4 実施期間

臨床倫理委員会承認後

5 研究に用いる試料・情報の種類

遺伝子変異を検出する検査として生殖細胞系の変異のみを検出するBRCAAnalysis(採血で行える)検査を行う。

6 研究責任者

医師 大枝 忠史